

## 平成24年度 第1回栄養学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時： 平成24年4月21日（金） 16時30分～18時30分

II. 場 所： 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

出席委員： 武藤 志真子委員長、酒井 映子委員、石崎 由美子委員、市丸 雄平委員

事務局： 井端 正臣事務局長、森下 幸平主幹、松本 忍職員

### III 議 事

#### 1. 委員長より本日の記録担当者選出

##### 1) 配布資料

- ① 委員会名簿
- ② 栄養学教育における学士力の考察（資料番号①）
- ③ 栄養学教育における教育改善モデル（その1）（資料番号②-1）
- ④ 栄養学教育における教育改善モデル（その2）（資料番号②-2）
- ⑤ 電子著作物相互利用事業へのご協力について（お願い）（資料番号③）

##### 2) 参考資料の配布物の内容

- ① 大学改革への協議体
- ② シラバスの充実方策
- ③ 中教審総会について
- ④ ファカルティー・ディベロップ面とIT活用
- ⑤ 学士課程教育の構築に向けて
- ⑥ 学系別委員会における教育改善モデル
- ⑦ 予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を養成する大学へ
- ⑧ 平成24年 第3回国家戦略会議資料

##### 3) 上記資料の説明があった。

参考資料6に基づき、授業の点検・評価・改善を、栄養学ではどのように行うか検討する。

#### 2. 学士力の実現に求められる教育改善モデルのとりまとめについて

##### 【方針設定】

議題：教育改善の点検・評価・改善についてまとめる。

- ① 点検・評価・改善の前に授業の枠くみを検討することが前提となる。
- ② 授業改善の前に、授業のカリキュラム、授業相互、地域との関連で枠組みをたてる。
- ③ 授業の点検を誰が、どのような観点で行うのか、授業科目間で異なる。  
関連分野教員、大学内の教員、外部関係者（地域組織、地域関係者）の意見も取り入れる。
- ④ 評価基準をそのように設定するのか。問題点の抽出が必要。
- ⑤ 問題点を抽出したら、改善はどのように行うか。

## 栄養学教育における教育改善モデル（その1）

### 1) 【原案提出】

「この授業の点検・評価・改善は、学生が作成した学習ポートフォリオによる学生間の相互評価及び教員や当該授業と協働した各種団体の関係者との多面的、複眼的、総合的な評価を公開討論やネット上での意見交換などを通して行う。学生主体の体験型授業として地域社会との協働を継続・発展させていくことが不可欠であるので、授業内容や運営方法およびカリキュラム全体の枠組み、地域連携の在り方などの振り返りを行い、学習支援体制の改善をはかる。」

### 2) 【原案に対する意見と討論】

点検評価と改善についてわけて考えることがよい。

#### (1) 点検・評価について

- ① 点検・評価の根拠と評価する者と団体、評価基準を明確にする。
- ② 点検・評価の基軸はポートフォリオと教員間とするのか？
- ③ 栄養教育は実践的であるため、評価は学生・地域団体など色々な立場からの評価が必要。
- ④ なぜ、地域・外部関係者が必要か。

地域貢献というのは評価の対象となる。外部団体による評価はより現実的。

教員間の評価に対する緩衝となる。

#### (2) 評価手段

- ① 意見交換とする組織および地域組織とのネットワークを通じて点検・評価を行う。
- ② 最終的評価は担当教員が行うが、評価のどこに重点を置くのか（評価基準の設定）。
- ③ 授業内容、授業の枠組みに基づく可能性が高い。
- ④ 種々の問題点が浮き出される。問題点抽出後、解決策としての改善案を検討する。

#### (3) 改善案の策定

- ① 教育課程の見直し（授業内容の振り返り）、枠組みの見直しが必要となる。
- ② この改革、改善については、誰が行うのか。

#### (4) 改善方法

- ① 教員のコンソーシアム、厚生省、どのレベルで改善策を講じるのか。
- ② 改善内容および時期については、各学年で行うことが必要。
- ③ 改善内容について提案を行い、総体としてのガバナンス機構にゆだねる。
- ④ ガバナンスは、学長、理事長、大学のポリシーなど
- ⑤ さらに、厚生省に働きかけることが必要

### 3) 【最終的な文案】

#### 3. 授業の点検・評価・改善

この授業の点検・評価は、各学年末ごとに学習ポートフォリオによる相互評価、関連科目の教員や地域社会の組織とのネットワークを活かした意見交換などを通じて行う。その上で授業内容や運営方法およびカリキュラム全体の枠組み、地域連携のあり方などについて、関連分野の教員によるチームを形成して振り返りを行い、改善に向けた提案を行う。

## 栄養学教育における教育改善モデル（その2）

### 1) 【原案提出】

「この授業の点検・評価・改善は、学生が記入した、学生ポートフォリオ及び教員の作成した、評価表を組み合わせ、担当教員と関連科目の教員で、情報を共有し、ネット上で意見交換を行う。そして栄養マネジメントの目的・展開が体得できているか、症例について総合的に判定できているか、カリキュラム全体の枠組みについて、振り返りを行うとともに、学習成果などについて大学教員、栄養教諭、社会の専門化などからの評価をうけることにより授業の改善をする。」

### 2) 【原案に対する意見と討論】

以上の原案について、検討を行なった。

#### (1) 点検・評価について

- ① 意見交換で、種々の意見が提出される。
- ② 学外の意見と学内の意見がある。
- ③ その意見を踏まえ、カリキュラム全体の枠組みおよび授業の進め方(カリキュラムフロー)について振り返り、改善を含めた提案を行う。

#### (2) 方法論

- ① ネット上での意見交換を通じて点検・評価・改善を行う。
- ② 評価はポートフォリオ、教員による評価表を参考とする。
- ③ ネットワーク上で共有し意見交換を通じて行う。

#### (3) カリキュラムの提案は、どの時点で行うのか。

- ① 4年間の段階でカリキュラムを変えることは困難である。
- ② 各年次でカリキュラムを変えることができる。特にシラバスの変更は行いやすい。
- ③ 必要とあれば厚生省に毎年出向いて交渉する。

#### (4) 改善方法

- ① 改善をネットワーク上で行うことは困難。
- ② コンソーシアムなどが必要。
- ③ コンソーシアムは、教員チームと言い換えることができる。

### 3) 【最終的な文案】

#### 3. 授業の点検・評価・改善

この授業の点検・評価は、各学年末ごとに学習ポートフォリオ及び教員による評価表を組み合わせ担当教員と関連科目の教員が情報を共有し、ネット上での意見交換を通じて行う。その上で、他大学教員、栄養教諭、社会の専門家の意見を踏まえ、カリキュラム全体の枠組み及び授業の進め方について振り返りを行い、改善に向けた提案を行う。

3. 今後のスケジュールについて

1) 今後の検討課題

今秋発表する大学教育への提言を意図し、教育改善モデルを実施するために必要な教育力について検討する

2) 次回の委員会

日時：平成24年6月2日（土）15:00～17:00に開催することとなった。

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上